

論文投稿を検討している研究者の方へ

査読を依頼されている研究者の方へ

院生・若手研究者を指導している研究者の方へ

粗悪学術誌に 関わらない ために



怪しいジャーナルの手口と確認ポイント

粗悪学術誌に関わると研究者としての評価が下がり
学術的信用を失うリスクがあります

粗悪学術誌 いわゆる「ハゲタカジャーナル」「Predatory Journal」とは

「査読誌である」と謳いながら、著者から論文投稿料を得ることのみを目的として、適切な査読を行わない、低品質のジャーナルのことです。近年、手口が巧妙化しており、どれが粗悪学術誌なのか判断が難しいケースも増えていきます。

「お金を払えばすぐに出版できる」というジャーナルは、すばやく業績を増やしたい研究者にとって、ある意味、とても便利で魅力的な存在です。しかし、その裏にひそむリスクについて、立ちどまって考えてください。ご自身の、または指導する学生・若手研究者の大切な研究キャリアを守るため、投稿者・査読者・指導者のあらゆる立場から

粗悪学術誌には「関わらない」「関わらせない」ようにしましょう。

巧妙化する手口

01 リスト類の過信は禁物

粗悪学術誌を見わけるツールとして、インターネット上には「ここに載っているジャーナルは危険」というリストがあります。逆に、「ここに載っているジャーナルは安全」というリストもあります。また、信頼できるジャーナルかどうか確認するチェックリストツールも存在します。「高名な論文データベースに収録されていれば危険度は低い」という見わけかたもよく使われています。

しかし残念ながら、こうしたリストやツール類、データベースも、完全に信用することはできません。近年、粗悪学術誌の出版社の手口は巧妙化しており、「安全」と言われているリストに、ジャーナルが掲載されるよう、編集や査読の方針を形だけ整えていることがあります。また、ジャーナルの評価を高めるために、投稿者に自誌引用を依頼して引用数が多いように見せかけるといった事例が報告されています。

粗悪学術誌を見わける絶対的な指針となるリストは存在しません。

どのジャーナルに投稿するか、リスト類を過信せず、ご自身でも様々な情報を集めて、総合的に判断することが重要です。

02 ジャーナルのなりすまし

既存ジャーナルの名称や ISSN※を騙る偽ジャーナルのサイトが発見されています。既存ジャーナルになりすまし、論文投稿料を詐取することを目的としています。小規模な出版社や学会のジャーナルが狙われる傾向にあります。

投稿先のジャーナルの正式名称と ISSN を確認したら、案内メールから貼られたリンクではなく、検索エンジンなどでそのジャーナルの公式サイトを検索してみましょう。

※ISSN: 国際標準逐次刊行物番号

03 著者のなりすまし

「自分が書いたのではない論文が自分の名前で学術誌に掲載されている」との事案が SNS に投稿され、波紋が広がっています。当該論文は生成 AI によって作成されたものと推定されています。捏造の意図は明らかになっていませんが、粗悪学術誌出版社が、名のある研究者の著作を掲載していることを装うことによって自誌の品質について印象操作を行っているのではないかとの見方もあります。

こちらも 注意

粗悪学術集会とは

参加料を得ることのみを目的として開催される、悪質な学会があります。「発表に適切なチェックが行われない」「活発な議論がない」など、参加者は有用な情報を得ることができません。ひどい場合は突然開催を中止し、参加料を返金しないこともあります。オンライン開催学会の増加とともに、こうした粗悪な学会の存在も報告されています。



体験談

—粗悪学術誌の実際のリスク—

京都大学図書館機構には、学内の研究者から「粗悪学術誌と関わりそうになった」「関わってしまった」という報告が多数寄せられています。ここでは、実際にあった体験談の一部をご紹介します。



投稿者として

論文を投稿したところ**何の編集もなく**アクセプトされた

著名な研究者の名前を騙って論文執筆依頼があった

誤って粗悪学術誌に投稿してしまい、**取り下げたいが対応してもらえない**

共著者が投稿したジャーナルが、粗悪学術誌だと後から気づき、後悔した

一度連絡をとったあと、**しつこい勧誘メール**が届いて困っている

査読期間が10日と短く、**実際には中身も見られていない**と感じた

レビューを担当した論文の内容がひどかったので**リジェクトしたが、無視されてそのまま掲載された**



査読者として



指導者として

他大学で、学生が論文を投稿した雑誌が粗悪学術誌と認定されたため、**学位取得に問題が生じた**と聞いた

ゲスト・エディターを引き受けたところ、多数の研究者のメールアドレスが送られてきて、**勧誘のメールを送るように要求された**



編集者として

投稿・査読の前に確認!!

01



ジャーナルの評判を聞く

そのジャーナルと関わるのがあなたの研究キャリアに有益となるか、同業の研究者の評判を聞いてみましょう。また SNS など、ジャーナルのクオリティについて議論されていませんか？

02



ジャーナルの公式サイトを見る

公式サイトを確認しましょう。画像の解像度が粗い、レイアウトが崩れているなど稚拙な点はありませんか？ ジャーナルの対象範囲と合致しない論文が掲載されていませんか？ 査読期間は不自然に短くありませんか？

03



過去の掲載論文を読む

そのジャーナルの掲載論文を実際に読んでみましょう。自分の研究を掲載するに足るクオリティの論文が掲載されていますか？

04



エディターのプロフィールを調べる

公式サイトに記載されたエディターはどんなキャリアの人ですか？ そのエディター自身の公式サイト（所属大学など）には、エディターであることが明言されていますか？

少しでも疑念を感じたら、投稿先としてふさわしくありません
慎重にご判断ください

図書館機構では、粗悪学術誌に関する質問・情報を受け付けています

もし「怪しい」と思ったこと、気になった事例がありましたら、右記フォームよりお知らせください。

図書館でも上記ポイントに基づいて調査し、フィードバックいたします。 ※京都大学に所属する方のみ対象

粗悪学術誌
問い合わせフォーム



<https://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/form/1380548>